

# 将来の夢はどう決まるのか

—小学生と大学生へのアンケート調査から—

---

生活文化学科 安藤ゼミ所属 東海彩帆

# 目次

---

- 第1章 序論

- 第1節 問題関心

- 第2節 キャリア教育の展開

- 第3節 小学生の職業認知について

- 第4節 青年期の職業選択について

- 第5節 研究の目的

- 第2章 予備調査

- 第1節 目的

- 第2節 手続き

- 第3節 結果

- 第4節 考察

- 第5節 本調査へ向けて

- 第3章 本調査

- 第1節 目的

- 第2節 手続き

- 第3節 結果

- 第4節 考察

- 第4章 総合考察

- 引用文献

- 参考文献・URL

# 問題関心

---

- 若者の就職率が高いのに対して、早期離職率も上昇している。
- 一昨年10月の小学校での教育実習で子どもたちと将来の夢についての話になったとき、ある女子児童から「私はパン屋さんになりたい」と言われた。

# 研究の目的

---

- 年齢によってそれぞれどのような理由で将来の夢を決定しているのか
  - 将来の夢を決めるにあたり性別によって制限があるのか
- を調べる。また、年齢を問わず将来の夢や就きたい職業をポジティブな理由で決定できるようにするには、学校においてどのような進路指導、職業指導が必要なのかについても考える。

# 調査の手続き

---

- 調査方法: 質問紙調査
- 調査対象者
  - 大学1～3回生の男女(45人)
  - 奈良女子大学附属小学校3年生の男女(60人)
- 調査期間: 2018年8月～10月

# 調査の手続き

---

## ● 質問紙の構成

属性：性別、学部、学科、学年、居住形態

保護者の職業、今までにしてきた習い事

小・中・高校時代に将来どういう仕事がしたいと思っていたか、その理由

現在の将来の夢(将来どういう仕事がしたいか)

(小さい頃と現在でしたい仕事が違う人は)いつ変わったか

今の職業を志望する理由

自己効力感について

(大工・医師・警察官・スポーツ選手・保育士/幼稚園教諭・看護師・アパレル店員・主婦/主夫・芸能人・教師・料理人・会社員)

# 調査結果

---

## ●小学3年生の将来の夢

- ・乗り物:CA パイロット 宇宙飛行士 バス/電車の運転手
- ・お店:服屋/スシロー/猫カフェの店員 パン屋 コンビニのレジ係
- ・先生:教師 ダンス/バレエ/ピアノの先生
- ・医療:医師 獣医 看護師 薬剤師
- ・スポーツ:野球/サッカー/水泳/陸上選手 コーチ 監督 力士
- ・芸能:芸人 歌手 モデル 声優
- ・その他:警察 ユーチューバー エンジニア 大工 F1レーサーなど

# 調査結果

---

## ●大学生の将来の夢

公務員 教員 専業主婦 商品開発 技術者 医師 研究者

臨床心理士 エンジニア 警察庁 演劇関係 建築関係 食品系

子どもと関わる仕事 デザイナー イラストレーター まちづくり

安定した収入(家族を養えるくらい)

自分の好きなこと、好きなもの

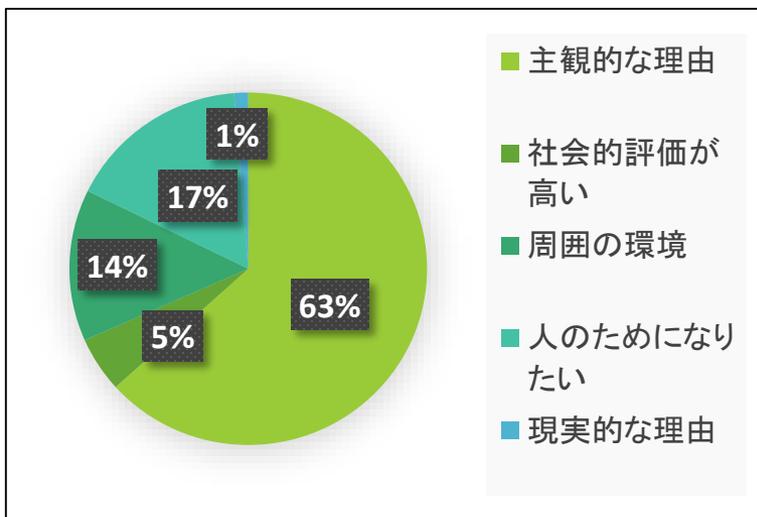
福利厚生のしっかりしたところ

人間関係の良好な職場

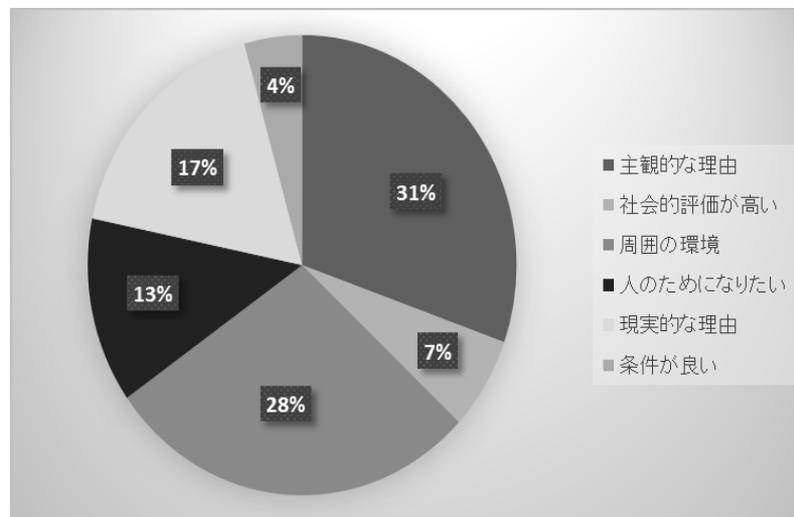
# 調査結果

## ● 将来の夢を決定する理由

小学校3年生が  
将来の夢を決める理由

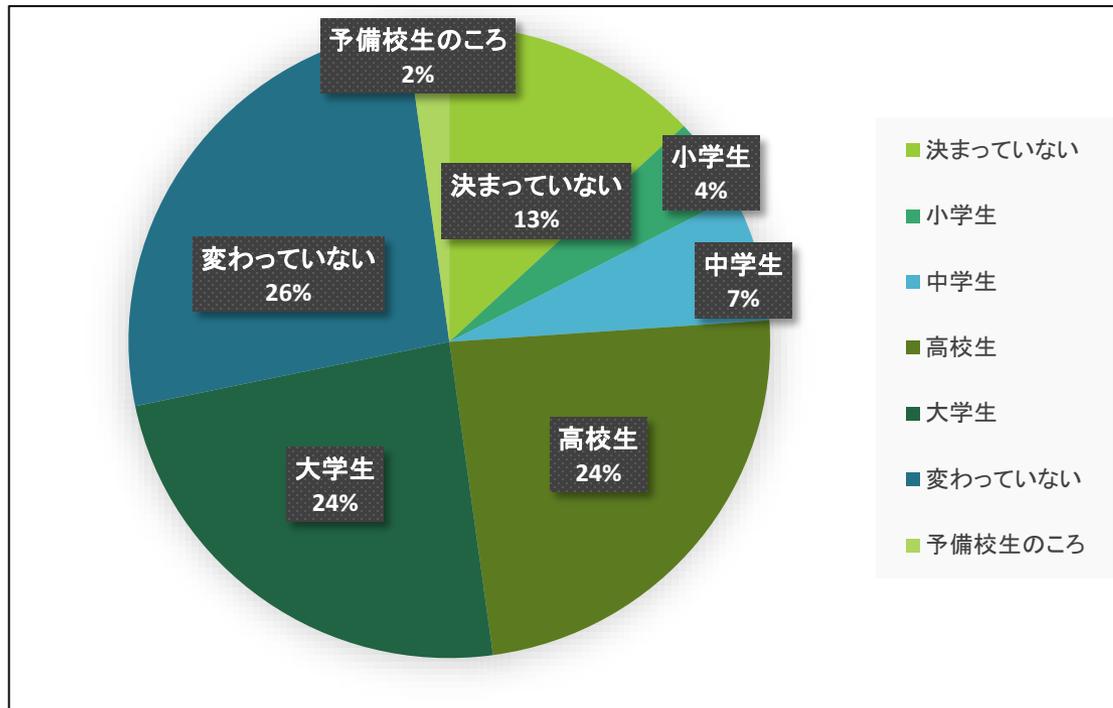


現在の大学生が将来の夢を決める理由



# 調査結果

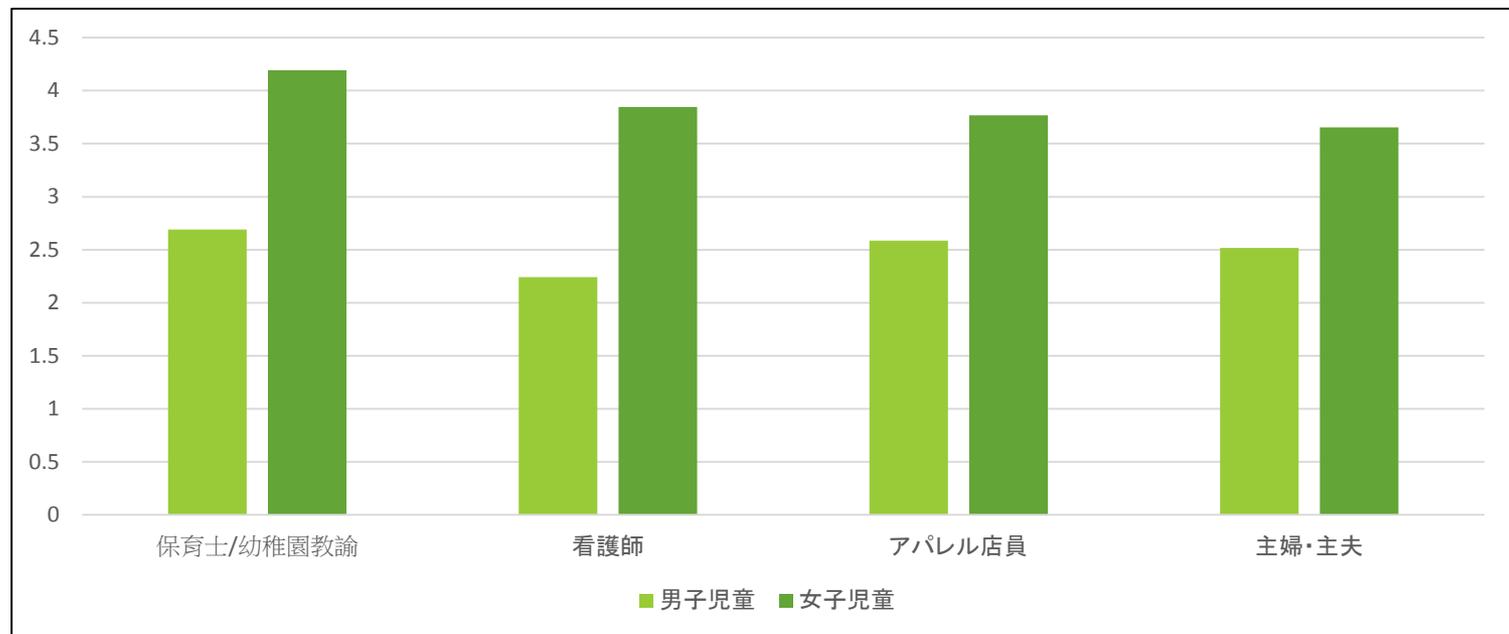
## ● 将来の夢がいつ変化したか



# 調査結果

## ● 自己効力感について

その仕事に対して「上手くできる」と思うかどうか



# 考察

---

- 将来の夢について

小学生：自分が行っている習い事や自分の周りにいる人、聞いたことがある職業を将来の夢にすると考えられる。

→発達段階が上がっていくにつれて知っている職業の幅も広がるため、将来就きたい職業がより具体的、現実的になる。

# 考察

---

- 自己効力感について

先行研究:「小学生の頃から性別は職業選択に消去法的に存在する」

→男子児童が女性の多い職業を「上手くできない」と思う気持ちは、女子児童が男性の多い職業を「上手くできない」と思う気持ちよりも強い。

→男子児童の方が女子児童よりも、異性の多い職業を消去法でより強く避けてしまう傾向にある。

# 総合考察

---

●本調査では、大学生においても積極的な理由で将来の夢を決定する人が私の予想よりも多かった。

→しかし、より多くの人がある職業に就くためには小学校から高等学校、または大学までより一貫したキャリア教育が求められる。

→大学進学だけを目的にした進路指導ではなく、大学進学後に自分のキャリアや職業選択があるということを見据えて広い視野に立った進路指導・職業指導が必要なのではないだろうか。